

# 令和元年度 野生鳥獣の生息状況等アンケート調査 集計結果概要

## 1. アンケート調査の目的と回収状況

### (1) 目的

農業集落ごとの野生鳥獣の生息状況や農業被害等を把握し、捕獲や防除対策等の資料とすることを目的とする。

### (2) 調査対象者、調査方法及び対象動物

#### ア 調査対象者

調査対象者は、農業集落ごとの被害や生息状況を把握するため市町村から農業精通者等の提供を受けてリストを作成した。また、市町村から回答者リストの提供が困難である場合には、指定管理鳥獣捕獲等事業の従事者の一部を対象とした。

#### イ 調査方法

調査票によるアンケート調査（郵送法）

#### ウ 対象動物

- ・ イノシシ
- ・ ニホンジカ
- ・ ツキノワグマ
- ・ ハクビシン

### (3) 配布及び回収数

発送した調査票は合計 1,550 通であり、回収した調査票は 1,132 通、集落名または行政区名が確認できた有効回答は 1,127 通で、有効回答率は 72.7%であった。そのうち、記入者の住所が特定できた回答は 1,027 通で、有効回答のうちの 91.1%だった。

住所が特定できた回答の位置図を図 1 に示す。

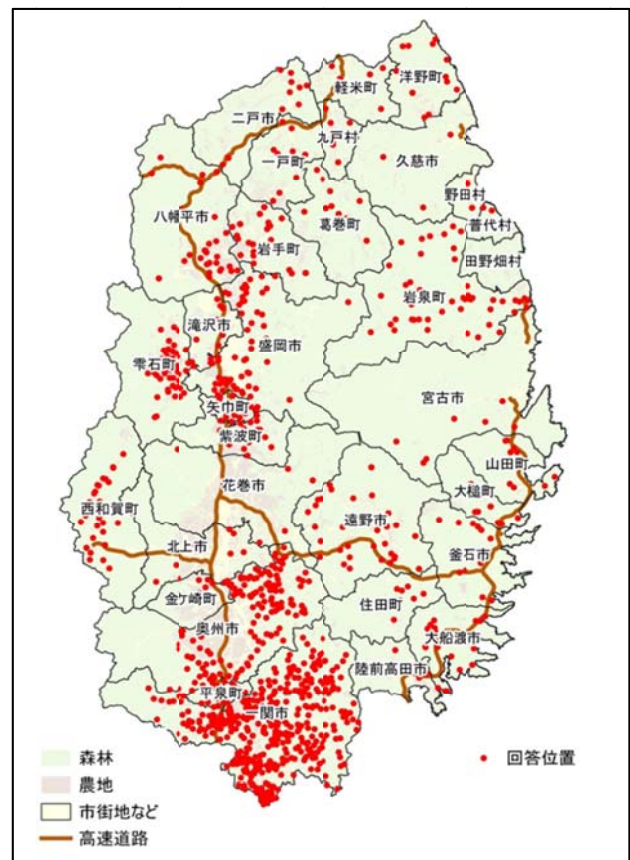


図 1 回答の位置図

## 2. 集落の状況

### (1) 集落の農家戸数

集落の農家戸数についての回答を図 2-1 に示す。

回答は、「10 戸以下」、「10～30 戸」、「30 戸以上」の 3 つからの選択形式とした。

集落の農家戸数は、「30 戸以上」が最も多く(55%)、次いで「10～30 戸」(38%)の順であった。

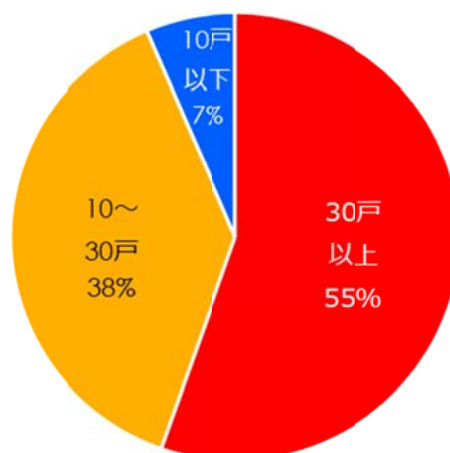


図 2-1 集落の農家戸数

### (2) 寄合などの頻度

寄合などの頻度についての回答を図 2-2 に示す。

回答は、寄合などの回数を数字で記入し、年間「1 回以上 5 回未満」、「5 回以上 10 回未満」、「10 回以上 15 回未満」、「15 回以上」の 4 段階に分けて集計した。

寄合の頻度は、「年間 1 回以上 5 回未満」が最も多く(41%)、次いで「5 回以上 10 回未満」(31%)の順であった。

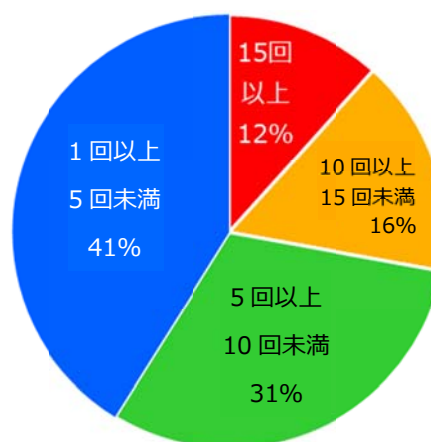


図 2-2 寄合などの頻度

### (3) 集落で行っている共同活動

集落で行っている共同活動についての回答を図 2-3 に示す。

集落で行っている共同活動は「道路の草刈り」が最も多く(87.7%)、次いで「集会所やお宮の草刈り、掃除」(83.3%)が多かった。なお、「鳥獣害対策等の研修会」は 5.7%と低かった。

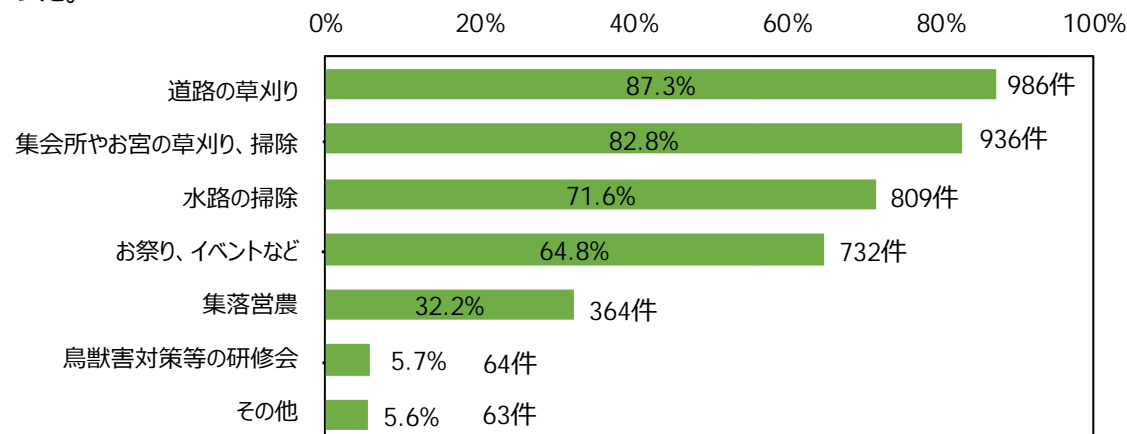


図 2-3 集落で行っている共同活動

### 3. イノシシについて

#### (1) 生息状況

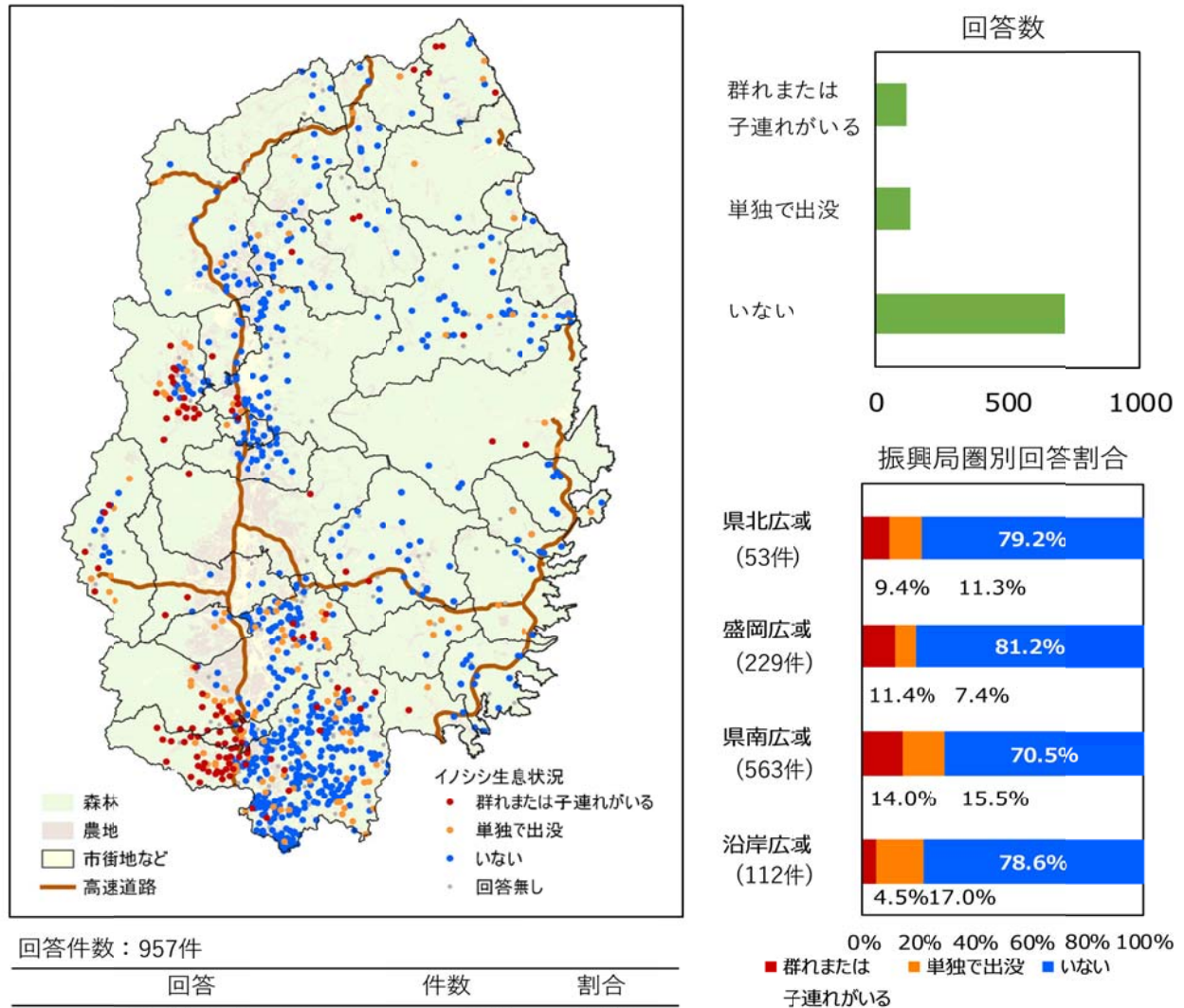


図 3-1 イノシシの生息状況

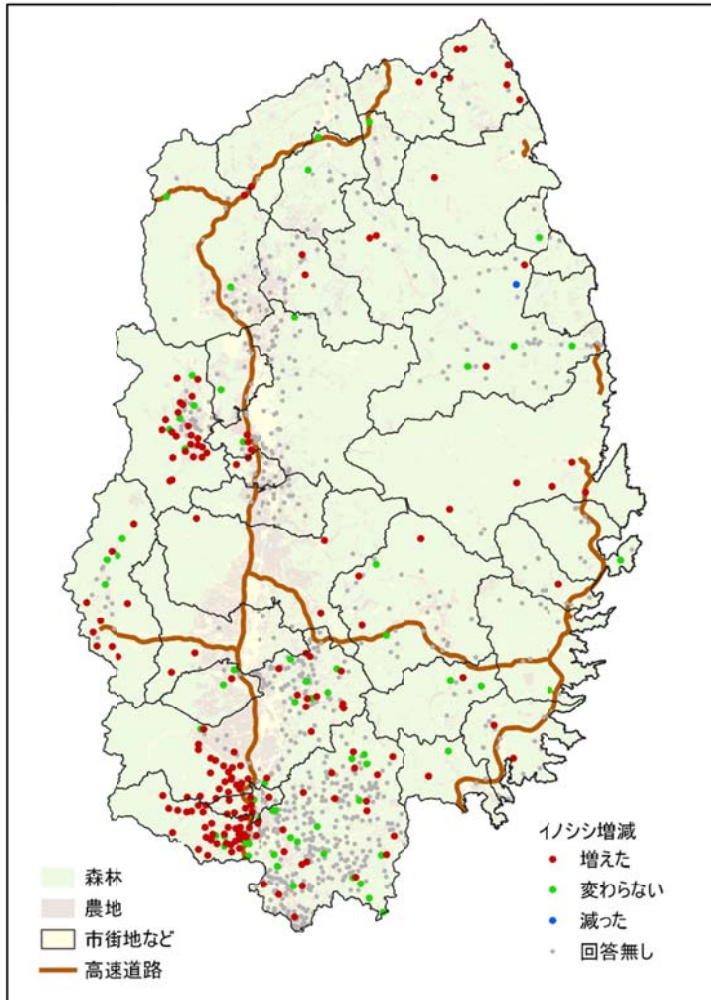
イノシシの生息状況についての回答（回答数 957 件）を図 3-1 に示す。

回答は、「群れまたは子連れがいる」、「単独で出沒」、「いない」の3段階とした。

県全体では「いない」の回答が多いが（74.5%）、「群れまたは子連れがいる」や「単独で出沒」の回答も散見され、県全域での生息が見られる。また、東北自動車道の西側において「群れまたは子連れがいる」との回答が多く見られ、これらの地域ではイノシシが定着している可能性が高い。

圏域別に見ると、県南広域圏では、「群れまたは子連れがいる」と回答した割合が他の圏域に比べて高くなっている（14.0%）。

(2) 出没の増減



回答件数：243件

| 回答    | 件数   | 割合    |
|-------|------|-------|
| 増えた   | 175件 | 72.0% |
| 変わらない | 67件  | 27.6% |
| 減った   | 1件   | 0.4%  |

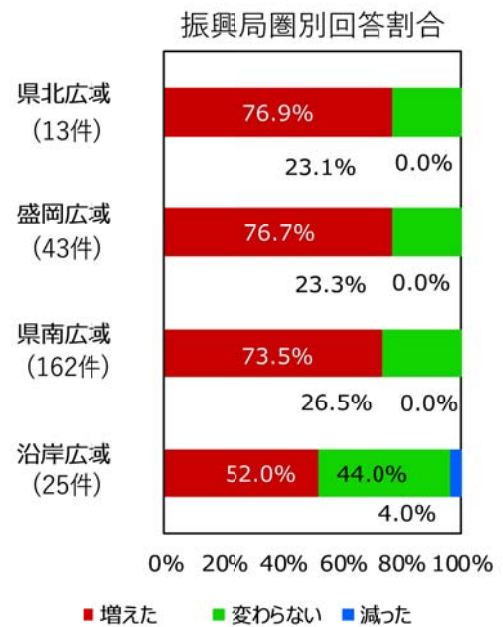
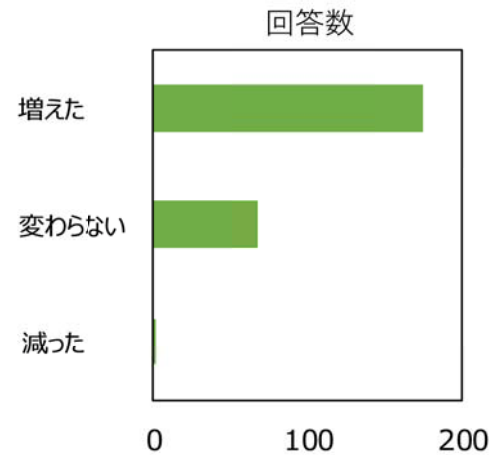


図 3-2 イノシシの頭数の増減

3年前と比較したイノシシの頭数の増減についての回答（回答数 243 件）を図 3-2 に示す。

回答は、「増えた」、「変わらない」、「減った」の3段階とした。

県全体では、頭数が「増えた」との回答が多く（72.0%）、圏域別に見ても県北、盛岡、県南広域圏を中心に「増えた」で回答した割合が7割を超えている。

「(2) 出没の増減」以降の調査は、「(1) 生息状況」の回答項目で「いない」以外の回答を対象として集計したものである。



### (3) 農業被害

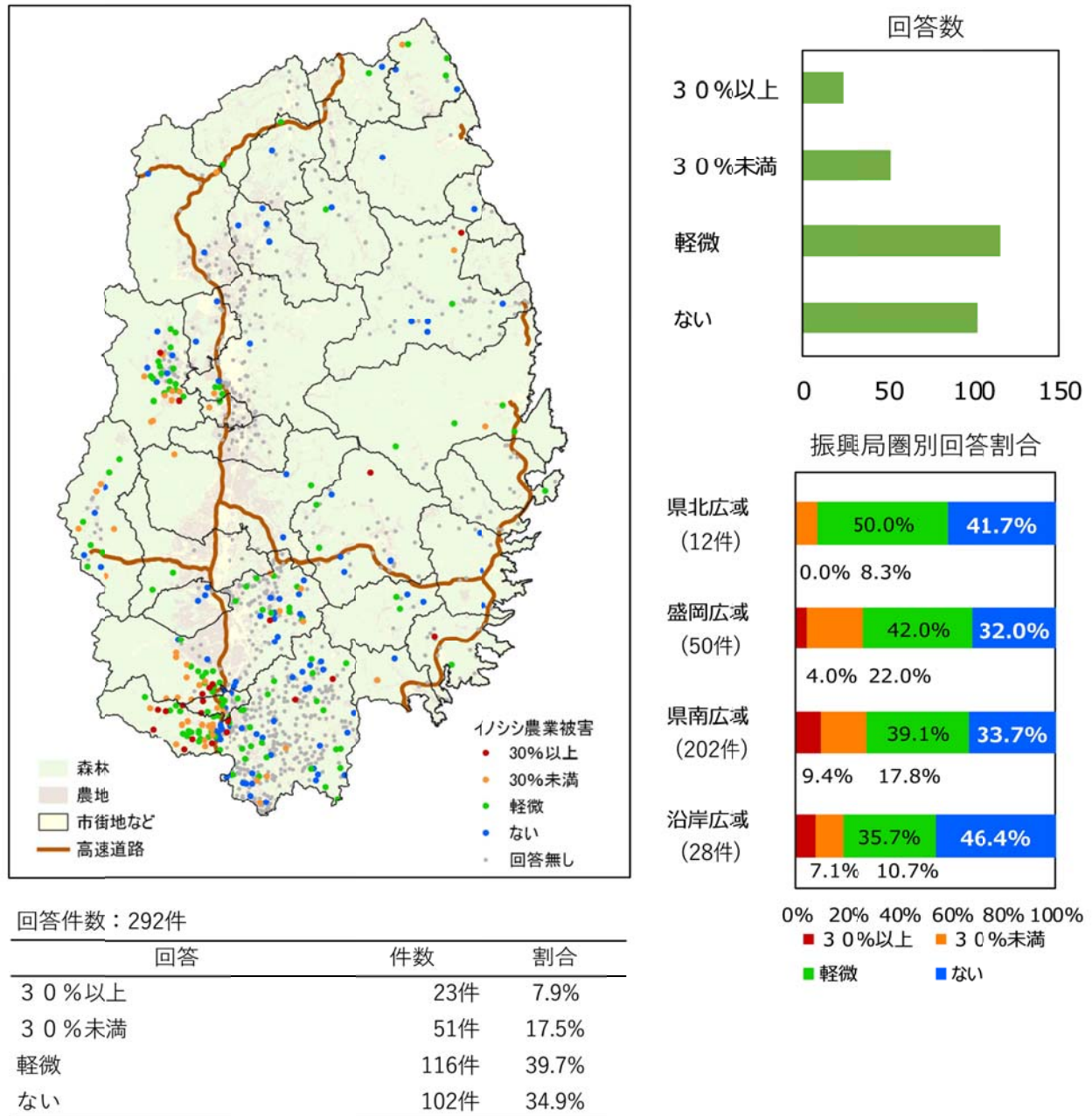


図 3-3 イノシシによる農業被害の程度

イノシシによる農業被害の程度についての回答（回答数 292 件）を図 3-3 に示す。

回答は、農作物の本来の生産量を 100%として、被害が「30%以上」、「30%未満」、「軽微」、「ない」の 4 段階とした。

県全体では、被害の程度について「軽微」との回答が多く（39.7%）、次いで「ない」となっているが、「30%未満」や「30%以上」の地域も散見される。

圏域別の農業被害の程度について、「30%以上」と「30%未満」の回答を合わせた割合で見ると、盛岡広域圏と県南広域圏が他の圏域に比べて高くなっている。

#### (4) 取り組んでいる防除対策と効果

取り組んでいる防除対策とその効果について図 3-4 に示す。また、複数の防除対策を組み合わせで行っている場合についてもあわせて集計した。

単独の防除対策は「防護柵」(72 件)との回答が最も多く、次いで「捕獲」(64 件)、「やぶ刈払い」(60 件)の順となっている。

対策別の効果については、「防護柵」を効果ありとした回答割合が約 6 割と最も高く、「捕獲」について効果ありとした割合は約 3 割となっている。

複数の防除対策の組み合わせとしては、「防護柵+捕獲」(29 件)と「防護柵+刈払い」(29 件)が多く行われており、組み合わせ対策の中では、「防護柵+捕獲」の効果が高い結果となっている。

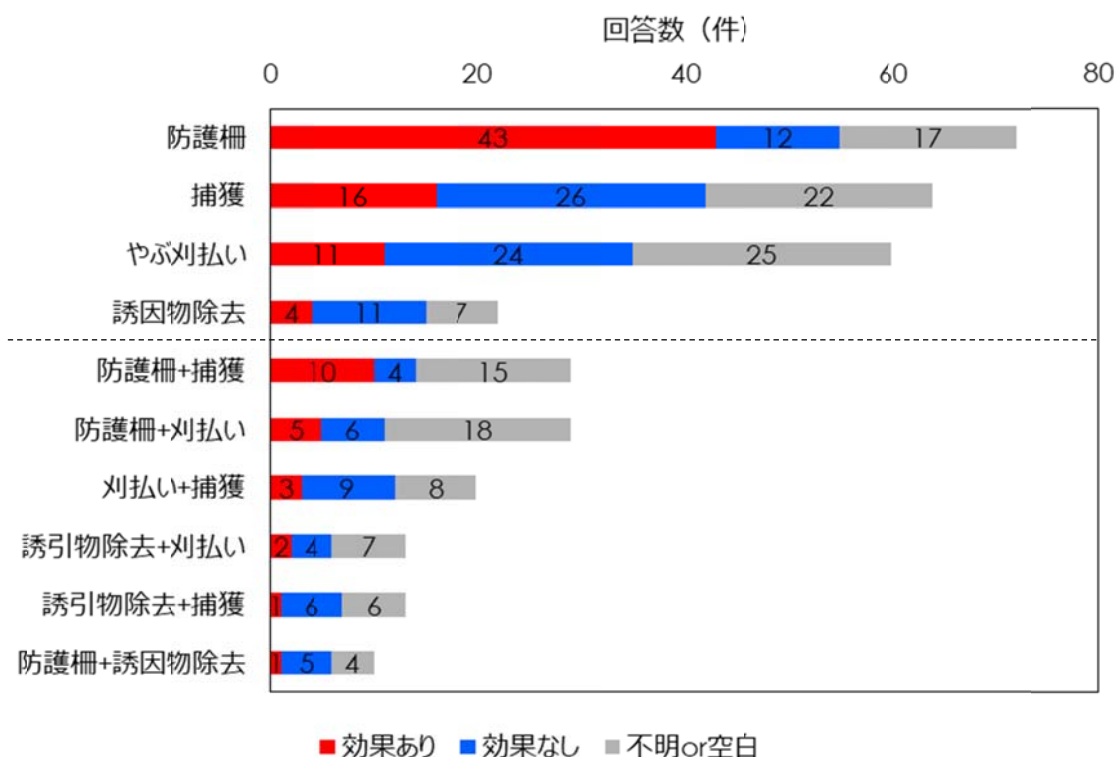
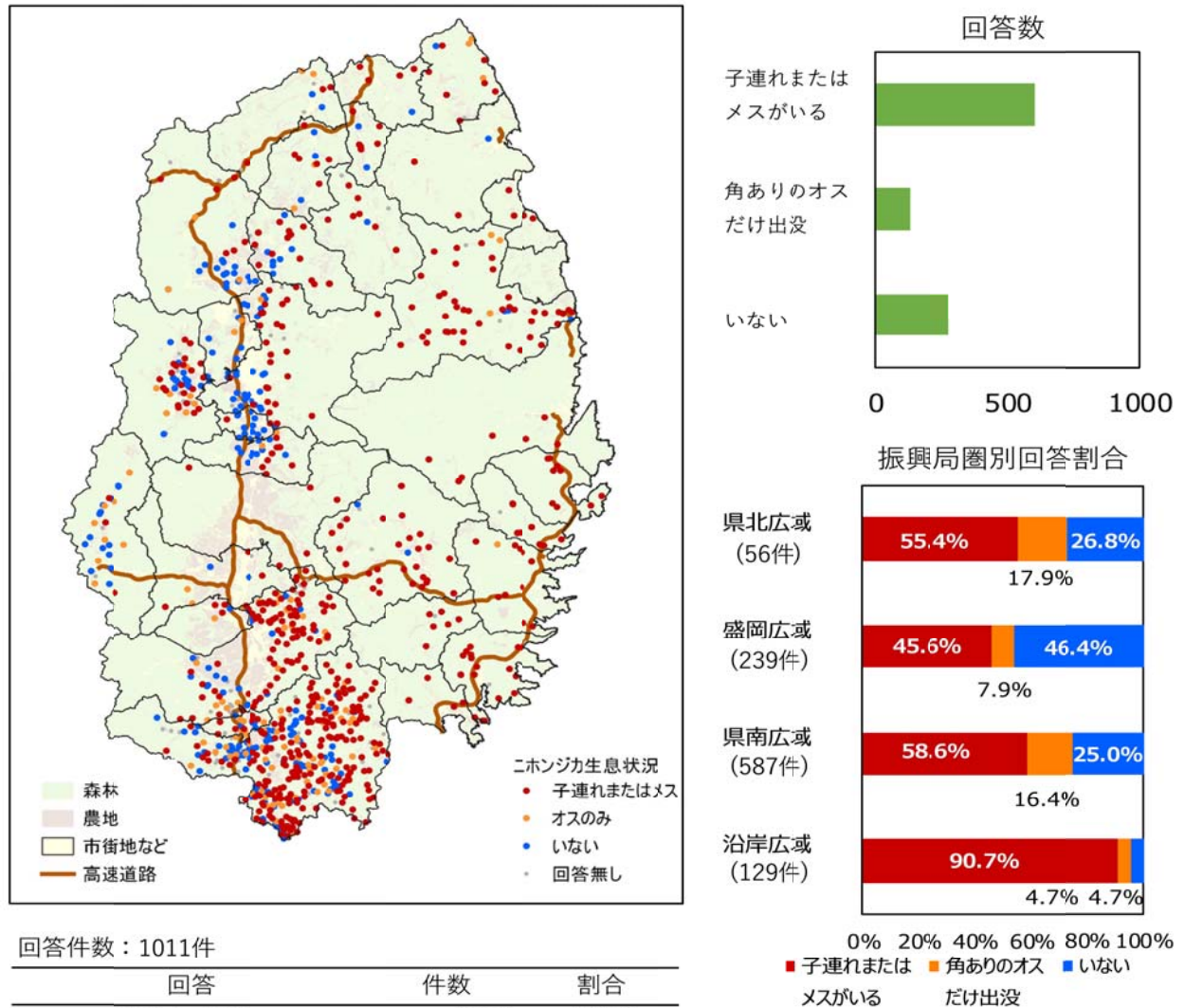


図 3-4 取り組んでいる防除対策と効果

## 4. ニホンジカについて

### (1) 生息状況



回答件数：1011件

| 回答          | 件数   | 割合    |
|-------------|------|-------|
| 子連れまたはメスがいる | 601件 | 59.4% |
| 角ありのオスだけ出沒  | 131件 | 13.0% |
| いない         | 279件 | 27.6% |

図 4-1 ニホンジカの生息状況

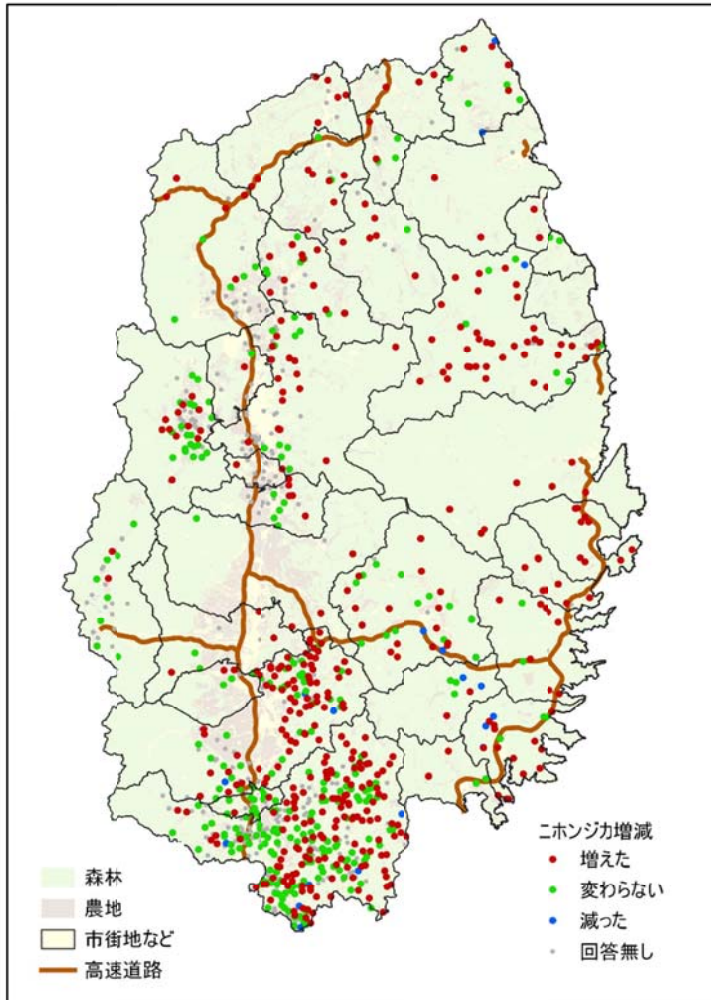
ニホンジカの生息状況についての回答（回答数 1,011 件）を図 4-1 に示す。

回答は、「子連れまたはメスがいる」、「角ありのオスだけ出沒」、「いない」の 3 段階とした。

県全体では「子連れまたはメスがいる」との回答が多く（59.4%）、次いで「いない」の順になっている（27.6%）。「子連れまたはメスがいる」と「角ありのオスだけ出沒」の回答を合わせると全体の 7 割以上を占め、ほぼ全域にわたり生息が確認されている。

圏域別に見ると、沿岸広域圏では、「子連れまたはメスがいる」と回答した割合が 9 割を占め他の圏域に比べて高く、県北広域圏や県南広域圏でも 5 割を超えている。

(2) 出没の増減



回答件数：760件

| 回答    | 件数   | 割合    |
|-------|------|-------|
| 増えた   | 445件 | 58.6% |
| 変わらない | 290件 | 38.2% |
| 減った   | 25件  | 3.3%  |

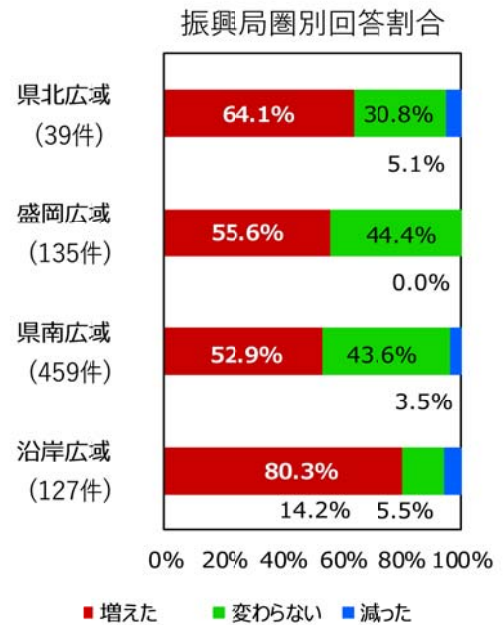
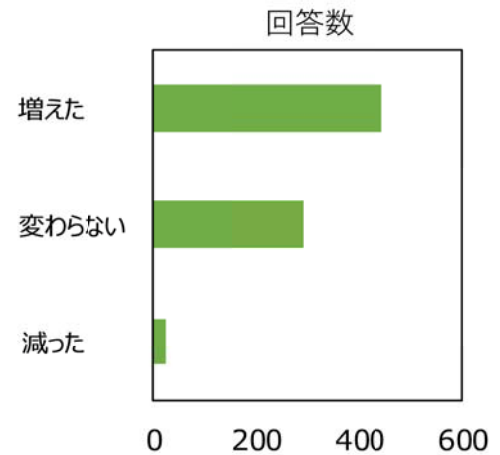


図 4-2 ニホンジカの頭数の増減

3年前と比較したニホンジカの頭数の増減についての回答（回答数760件）を図4-2に示す。

回答は、「増えた」、「変わらない」、「減った」の3段階とした。

県全体では、頭数が「増えた」との回答が多く（58.6%）、次いで「変わらない」の順となっている（38.2%）。

圏域別に見ると、沿岸広域圏では、「増えた」と回答した割合が他の圏域に比べて高くなっている（80.3%）。

「(2) 出没の増減」以降の調査は、「(1) 生息状況」の回答項目で「いない」以外の回答を対象として集計したものである。



### (3) 農業被害

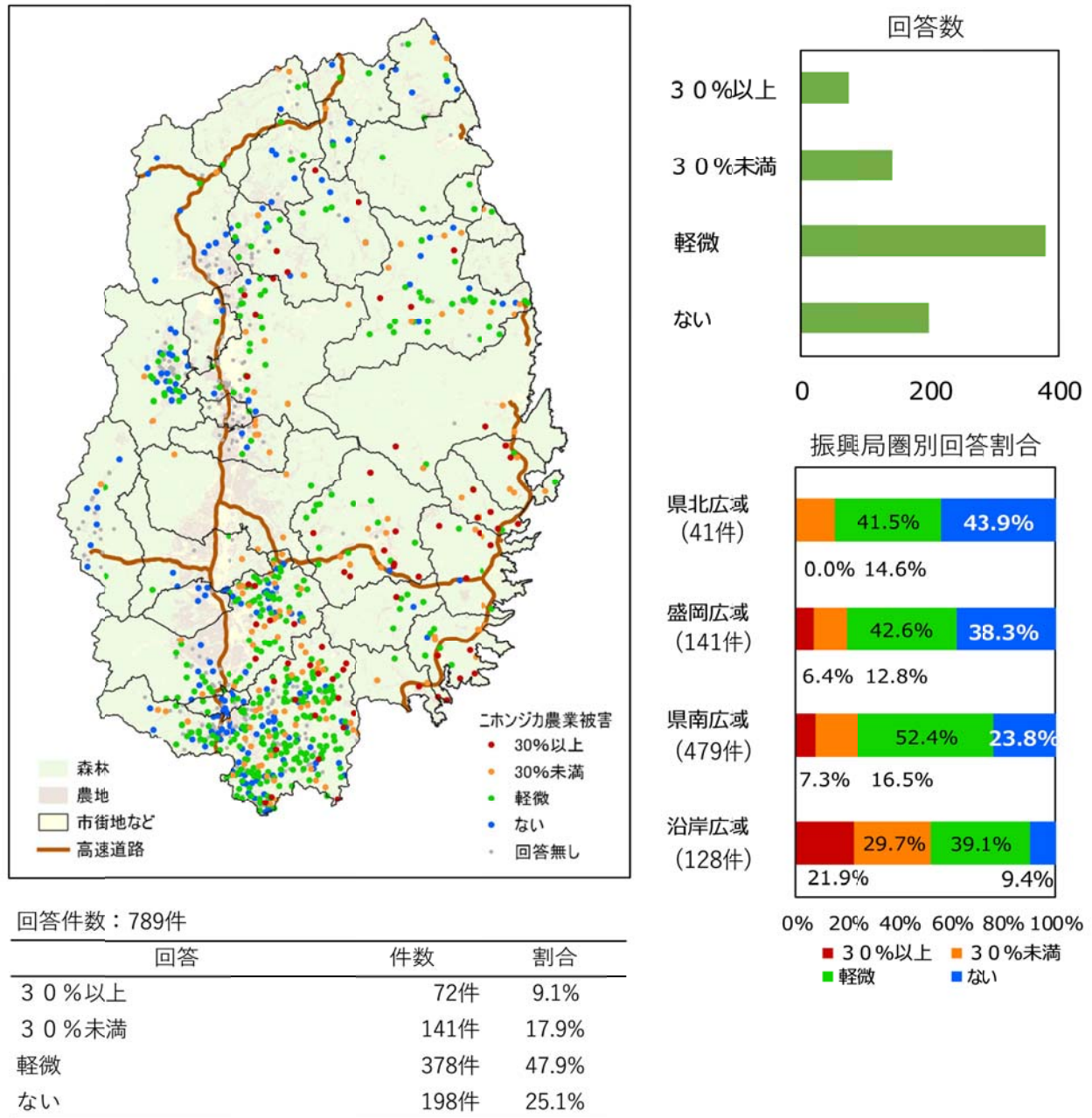


図 4-3 ニホンジカによる農業被害の程度

ニホンジカによる農業被害の程度についての回答（回答数 789 件）を図 4-3 に示す。

回答は、農作物の本来の生産量を 100%として「30%以上」、「30%未満」、「軽微」、「ない」の 4 段階とした。

県全体では、農業被害について「軽微」との回答が多く（47.9%）、次いで「ない」（25.1%）、「30%未満」（17.9%）の順となっている。

圏域別の農業被害の程度について、「30%以上」と「30%未満」の回答を合わせた割合で見ると、沿岸広域圏における農業被害が他の圏域に比べて高くなっている（51.6%）。

(4) 取り組んでいる防除対策と効果

取り組んでいる防除対策とその効果について、図 4-4 に示す。また、複数の防除対策を組み合わせで行っている場合についてもあわせて集計した。

単独の防除対策は「防護柵」(301 件)との回答が多く、次いで「やぶ刈払い」(160 件)、「捕獲」(155 件)の順となっている。

対策別の効果については、「防護柵」を効果ありとした回答割合が約 7 割と最も高く、「捕獲」について効果ありとした割合は約 5 割となっている。

複数の防除対策の組み合わせとしては、「防護柵 + 捕獲」が多く行われており(95 件) 組み合わせ対策の中では、効果ありと回答した割合が最も高くなっている。

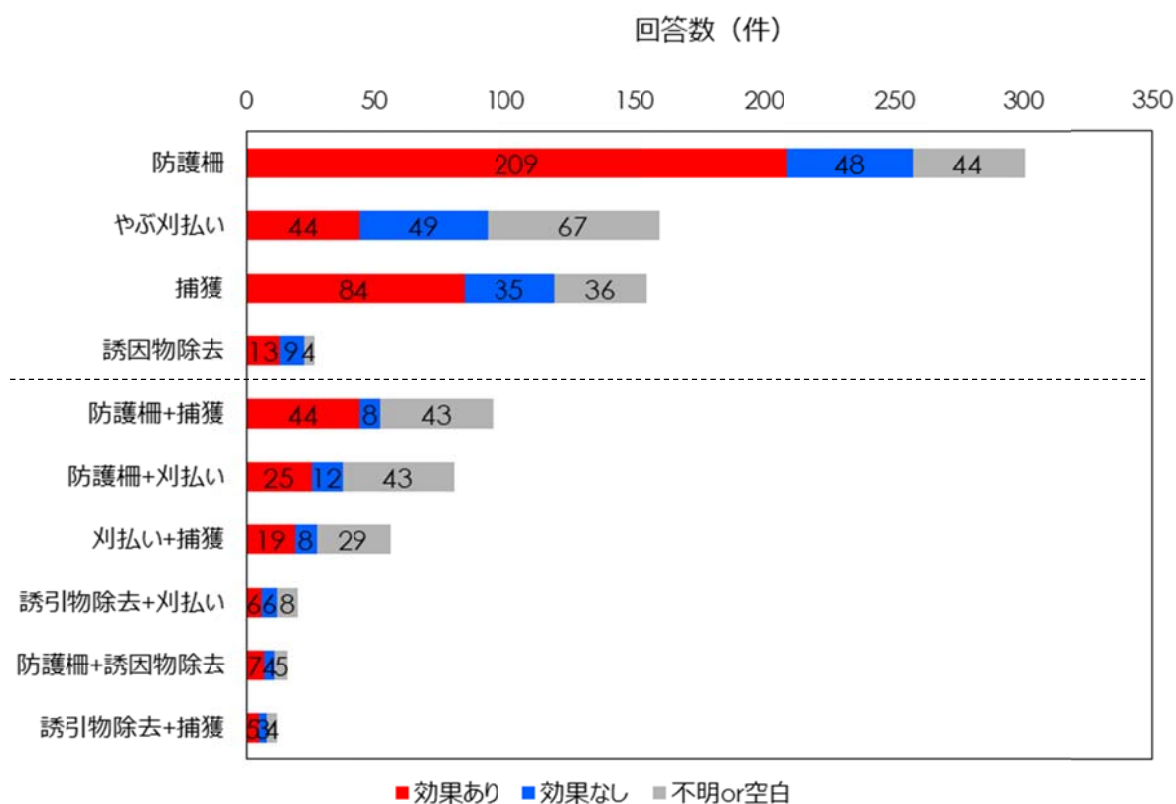


図 4-4 実施している防除対策とその効果

## 5. ツキノワグマについて

### (1) 生息状況

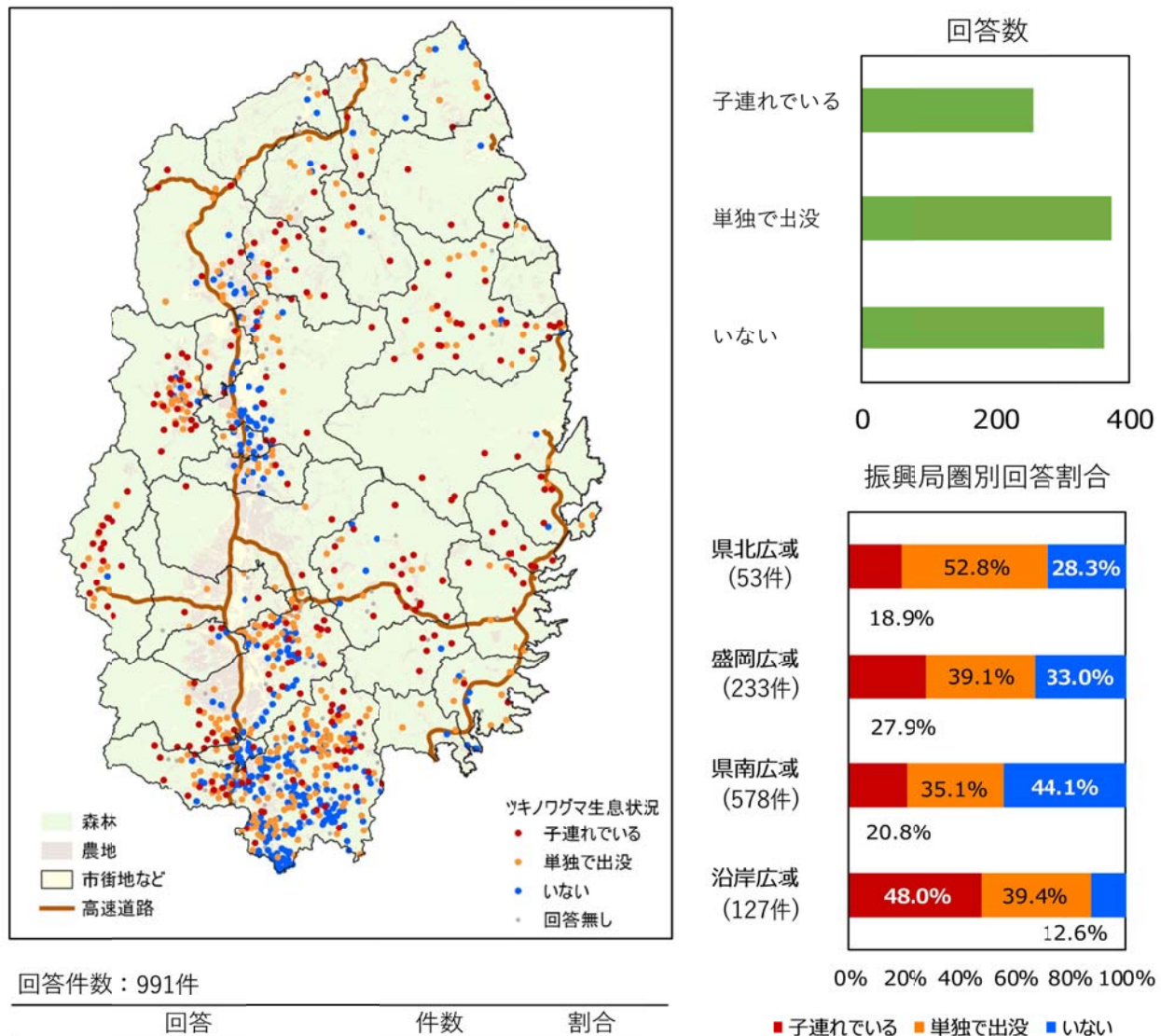


図 5-1 ツキノワグマの生息状況

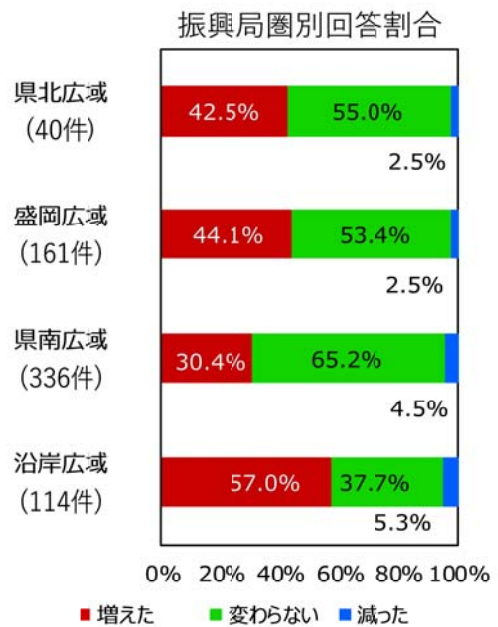
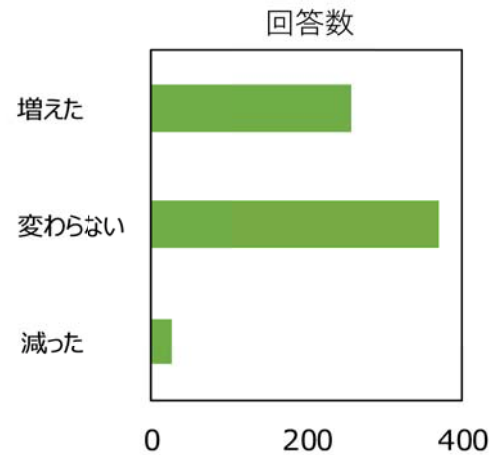
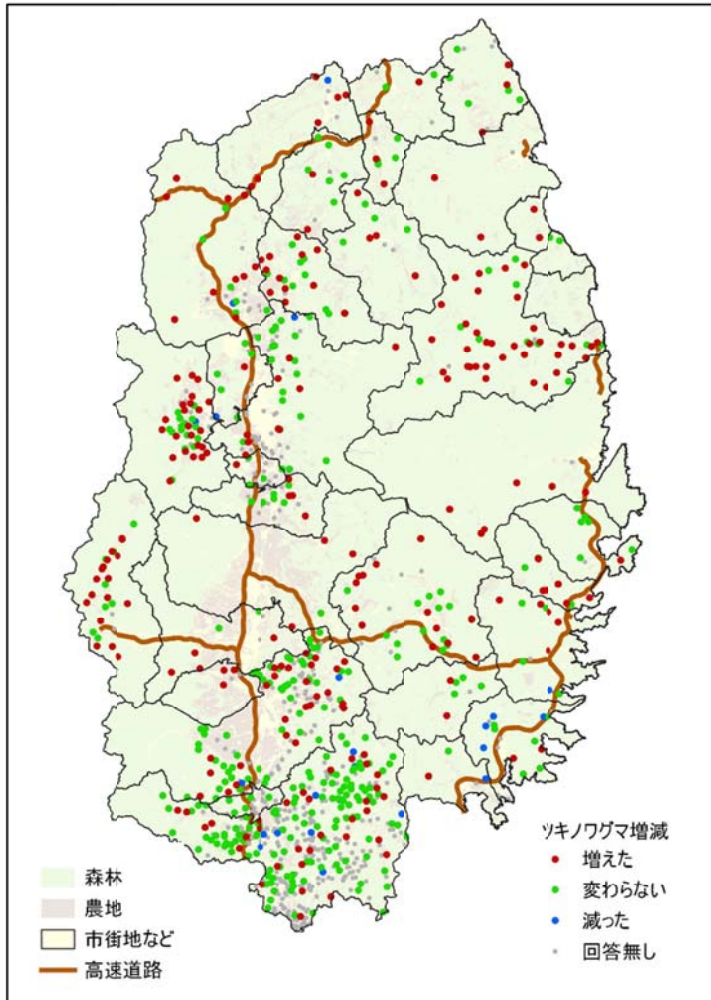
ツキノワグマの生息状況についての回答（回答数 991 件）を図 5-1 に示す。

回答は、「子連れでいる」、「単独で出没」、「いない」の3段階とした。

県全体では、「単独で出没」との回答が最も多く（37.5%）、次いで「いない」（36.6%）、「子連れでいる」（25.8%）の順となっている。

圏域別に見ると、沿岸広域圏では、「子連れでいる」と回答した割合が他の圏域に比べて高くなっている（48.0%）。

(2) 出没の増減



回答件数：651件

| 回答    | 件数   | 割合    |
|-------|------|-------|
| 増えた   | 255件 | 39.2% |
| 変わらない | 370件 | 56.8% |
| 減った   | 26件  | 4.0%  |

図 5-2 ツキノワグマの頭数の増減

3年前と比較したツキノワグマの頭数の増減についての回答（回答数 651 件）を図 5-2 に示す。回答は、「増えた」、「変わらない」、「減った」の3段階とした。県全体では、「変わらない」との回答が多く（56.8%）、次いで「増えた」の順となっている（39.2%）。圏域別に見ると、沿岸広域圏では、「増えた」と回答した割合が他の圏域に比べて高くなっている（57.0%）。

「(2) 出没の増減」以降の調査は、「(1) 生息状況」の回答項目で「いない」以外の回答を対象として集計したものである。



### (3) 農業被害

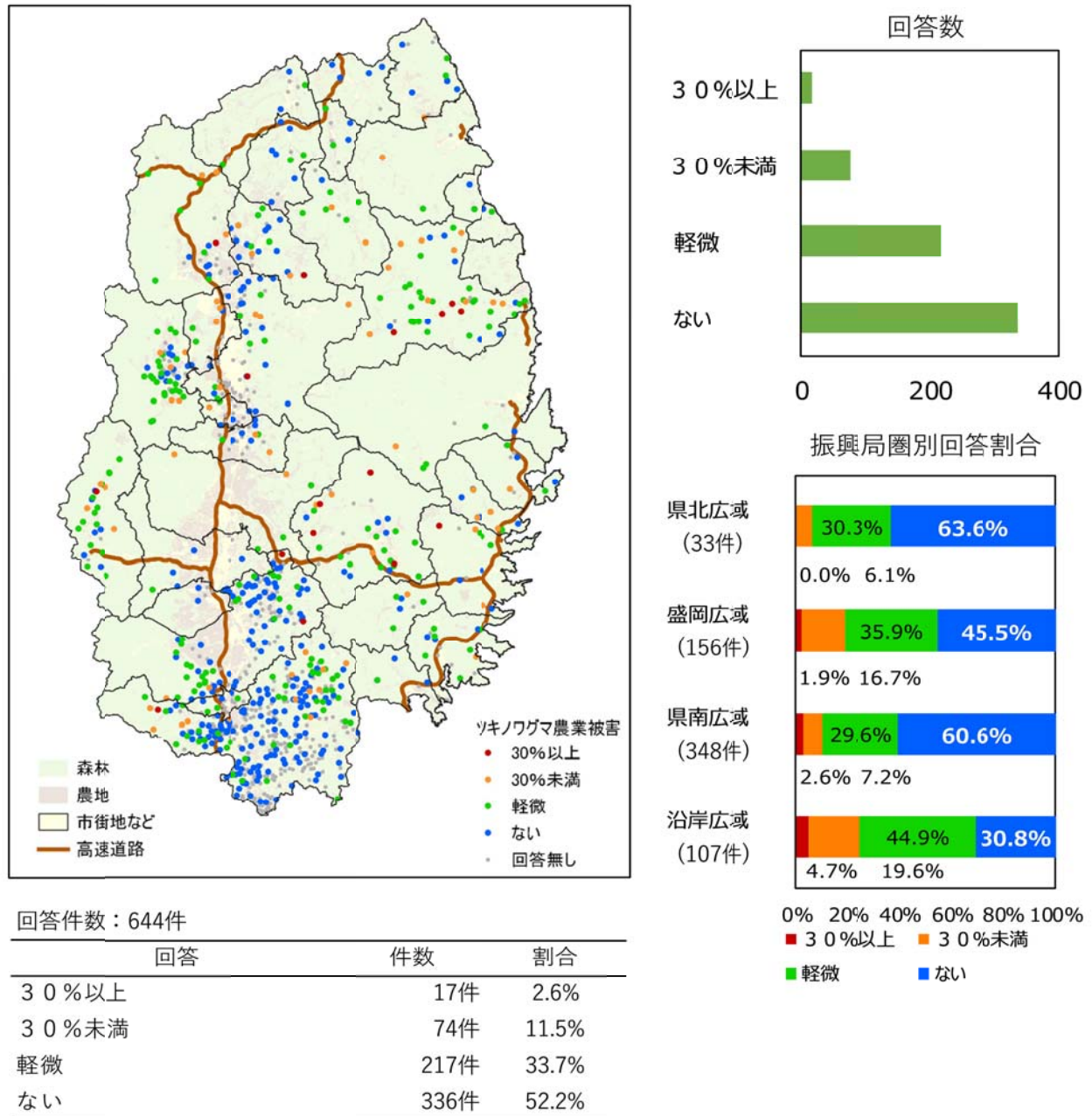


図 5-3 ツキノワグマによる農業被害の程度

ツキノワグマによる農業被害の程度についての回答（回答数 644 件）を図 5-3 に示す。

回答は、農作物の本来の生産量を 100%として「30%以上」、「30%未満」、「軽微」、「ない」の4段階とした。

県全体では、被害の程度について「ない」との回答が多く（52.2%）、次いで「軽微」となっているが、「30%未満」や「30%の以上」の地域も散見される。

圏域別の農業被害の程度について「30%以上」と「30%未満」の回答を合わせた割合で見ると、沿岸広域圏が他の圏域に比べて高くなっている（24.3%）。

#### (4) 取り組んでいる防除対策と効果

取り組んでいる防除対策とその効果について図 5-4 に示す。また、複数の防除対策を組み合わせで行っている場合についてもあわせて集計した。

単独の防除対策は「防護柵」(161 件)との回答が最も多く、次いで「捕獲」(127 件)、「追い払い」(45 件)、「誘引物除去」(44 件)の順となっている。

対策別の効果については、「防護柵」を効果ありとした回答割合が5割以上と最も高く、「捕獲」について効果ありとした割合は5割以上となっている。

複数の防除対策の組み合わせとしては、「防護柵+捕獲」(44 件)が多く行われており、組み合わせ対策の中では、効果ありと回答した割合が最も高くなっている。

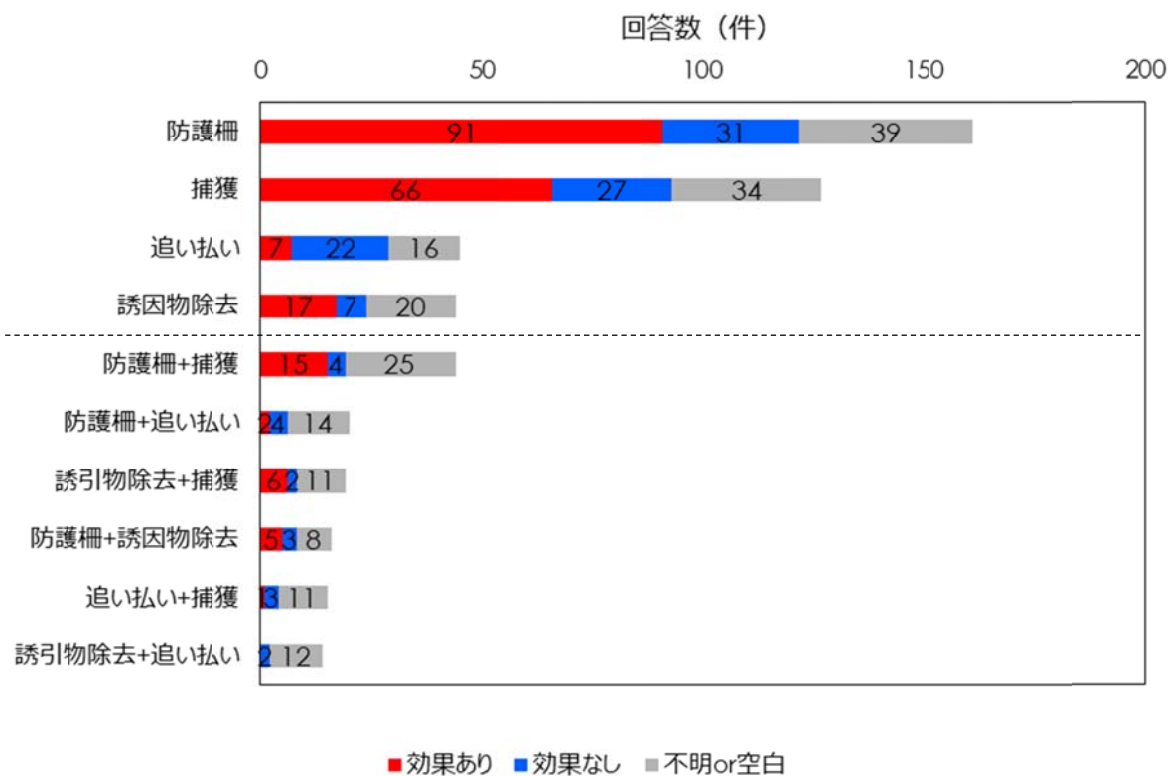


図 5-4 実施している防除対策とその効果

## 6. ハクビシンについて

### (1) 生息状況

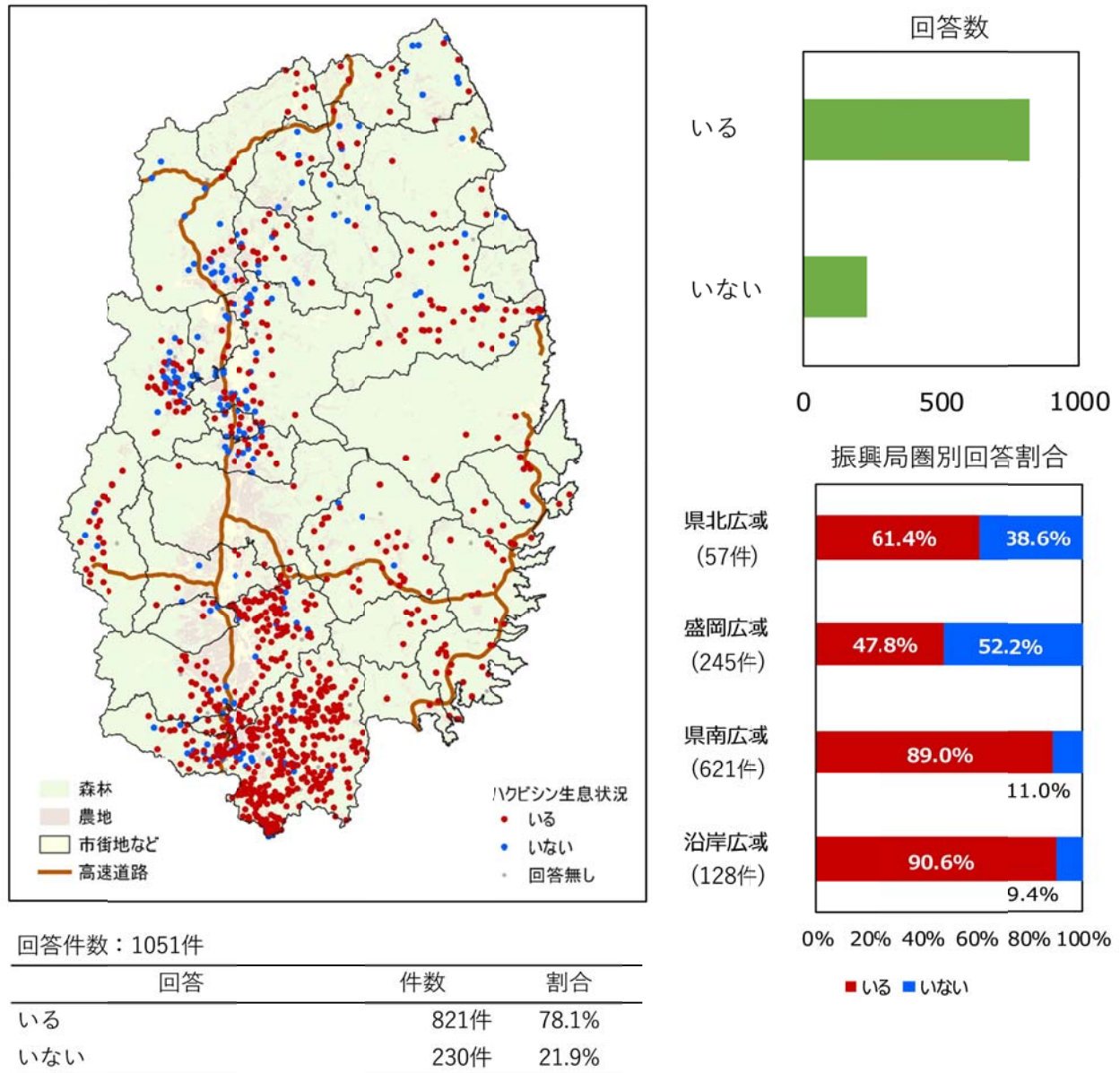


図 6-1 ハクビシンの生息状況

ハクビシンの生息状況についての回答（1,051件）を図 6-1 に示す。

回答は、「いる」、「いない」の2段階とした。

県全体では「いる」の回答が多く、全体の約8割を占めている。

圏域別に見ると、県南広域圏と沿岸広域圏では、「いる」と回答した割合が他の圏域に比べて高くなっている。

(2) 出没の増減

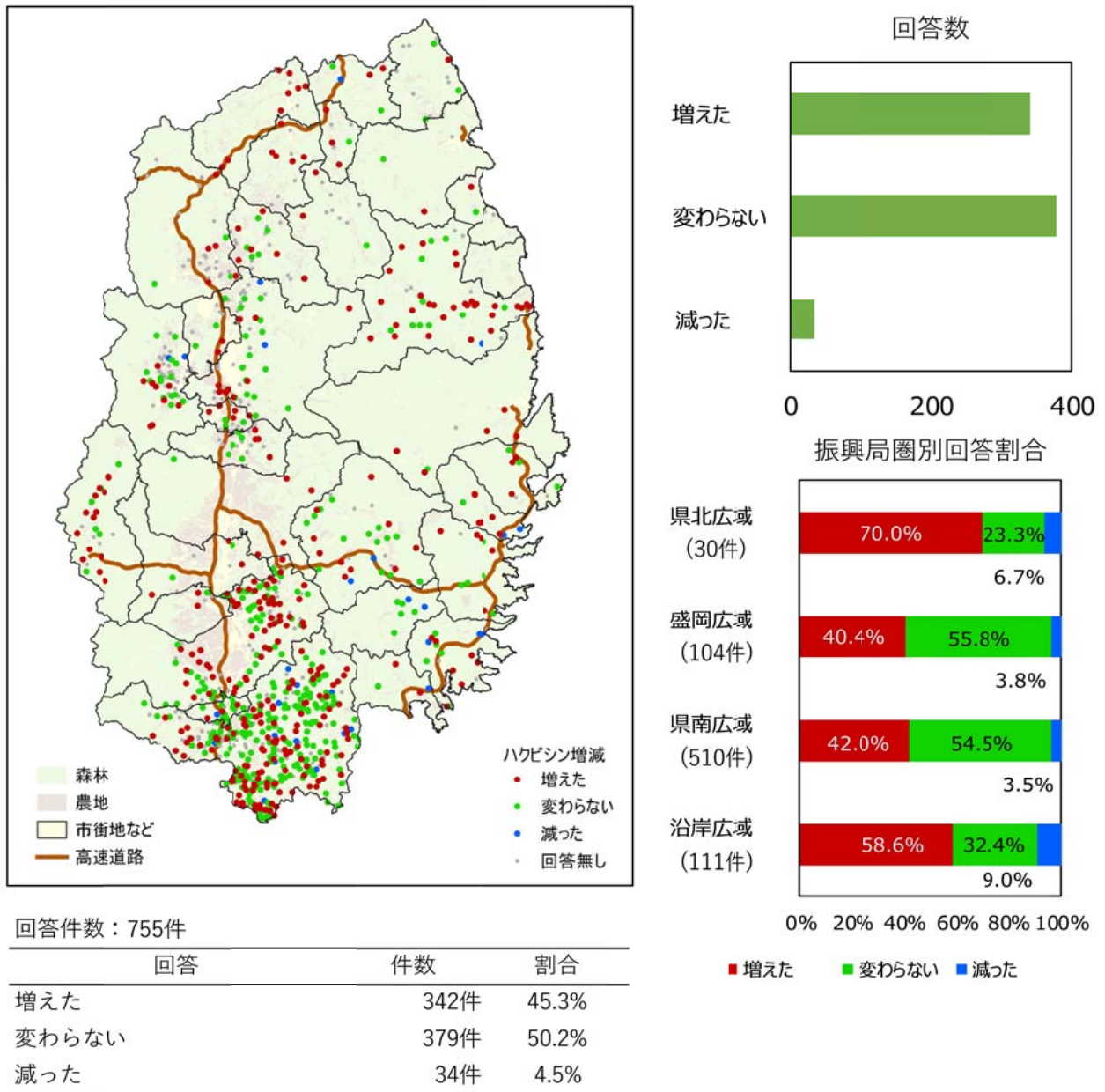


図 6-2 ハクビシンの頭数の増減

3年前と比較したハクビシンの頭数の増減についての回答（回答数 755 件）を図 6-2 に示す。回答は、「増えた」、「変わらない」、「減った」の3段階とした。県全体では、頭数が「変わらない」（50.2%）と「増えた」（45.3%）の回答が多い。圏域別に見ると、県北広域圏と沿岸広域圏では、「増えた」と回答した割合が他の圏域に比べて高くなっている。

「(2) 出没の増減」以降の調査は、「(1) 生息状況」の回答項目で「いない」以外の回答を対象として集計したものである。



### (3) 農業被害

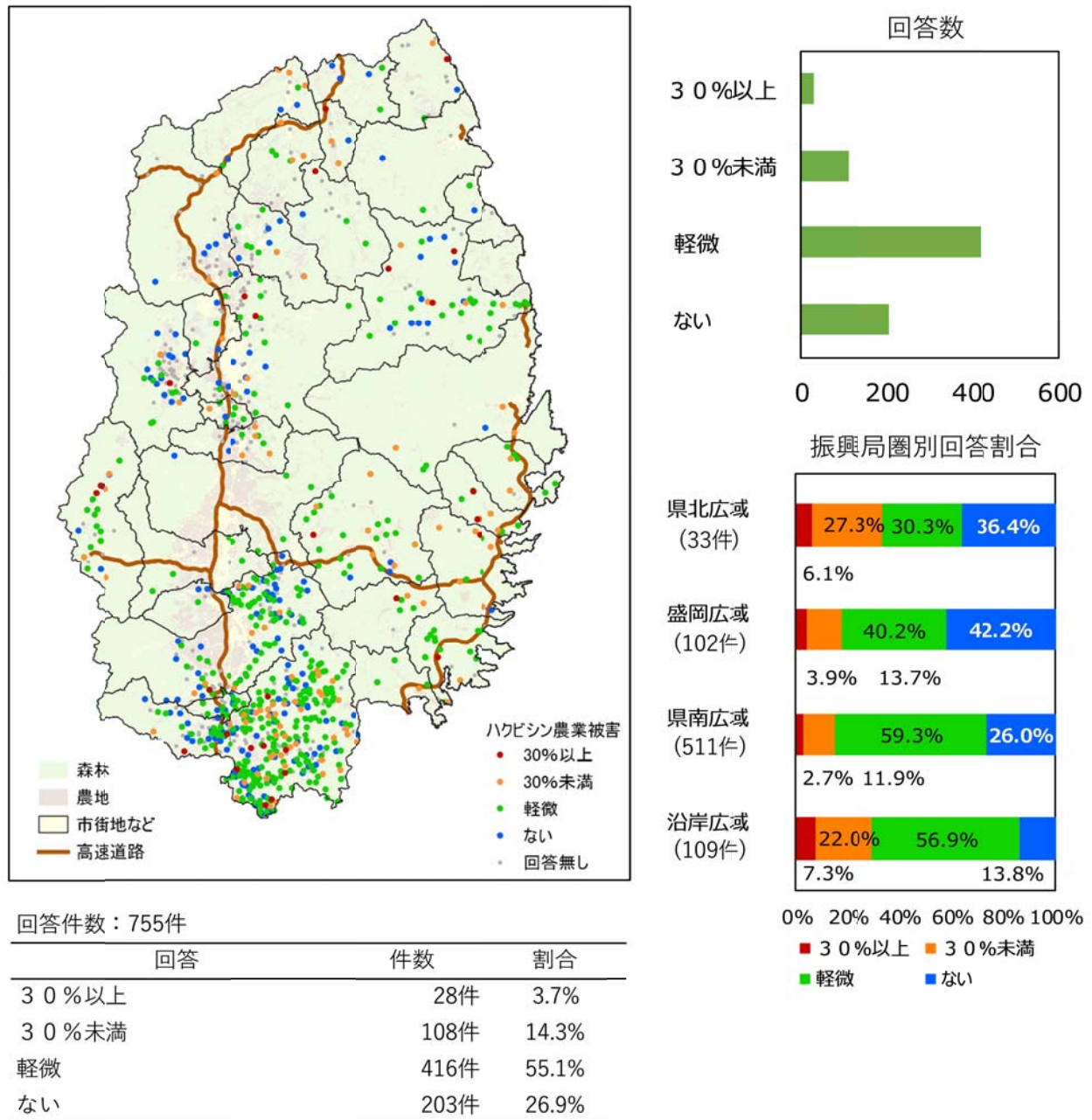


図 6-3 ハクビシンによる農業被害の程度

ハクビシンによる農業被害の程度についての回答（回答数 755 件）を図 6-3 に示す。

回答は、農作物の本来の生産量を 100%として、被害が「30%以上」、「30%未満」、「軽微」、「ない」の 4 段階とした。

県全体では、農業被害について「軽微」の回答が多く（55.1%）、次いで「ない」（26.9%）、「30%未満」（14.3%）の順となっている。

圏域別に見ると、県北広域圏と沿岸広域圏では、「30%以上」と「30%未満」を合わせた回答割合が他の圏域に比べて高くなっている。

(4) 取り組んでいる防除対策と効果

取り組んでいる防除対策とその効果について図 6-4 に示す。また、複数の防除対策を組み合わせられている場合についてもあわせて集計した。

単独の防除対策は「捕獲」(243 件)との回答が最も多く、次いで「防護柵」(223 件)の順となっている。

対策別の効果については、「捕獲」を効果ありとした回答割合が5割以上と最も高く、「防護柵」について効果ありとした割合は4割以上となっている。

複数の防除対策の組み合わせとしては、「防護柵+捕獲」(72 件)が多く行われており、組み合わせ対策の中では、効果ありと回答した割合が最も高くなっている。

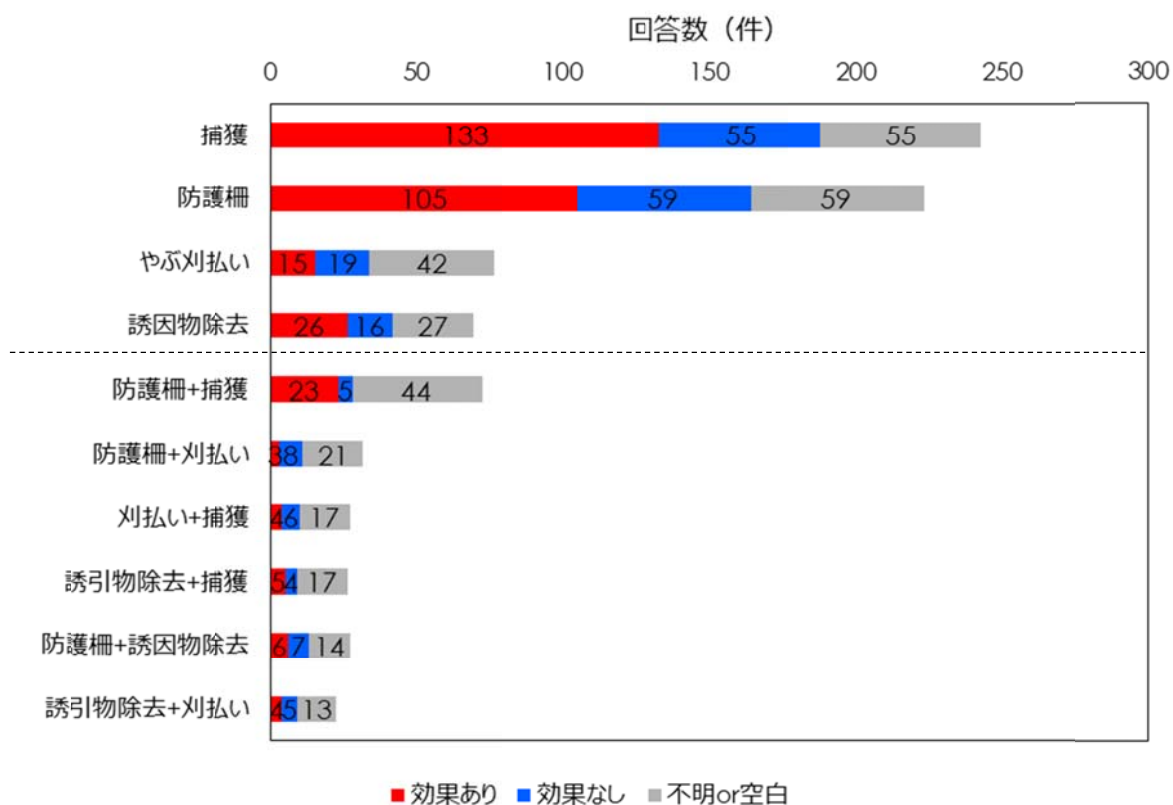


図 6-4 実施している防除対策とその効果